

地球社会と私たち～これからの地球社会と日本 日本の外交の現状と課題  
2030年SDGsを達成するために～マレーシアと定山溪をLINKさせた授業

(授業実践日時：平成30年3月1日 4校時 11:55～12:45)

氏名：佐久間 勇史

学校名：札幌市立定山溪中学校

担当教科：社会科

実践教科：社会科

時間数：3時間

対象学年：3学年

人数：6名

学習領域

	1	2	3	4	関連するSDGs
A多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生		1(貧困), 3(保健), 4(教育), 6(水・衛生), 8(経済成長と雇用), 9(インフラ等), 15(陸上資源)ほか
Bグローバル社会	相互依存	情報化			
C地球的課題	人権	環境	平和	開発	
D未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加		

【実施概要】


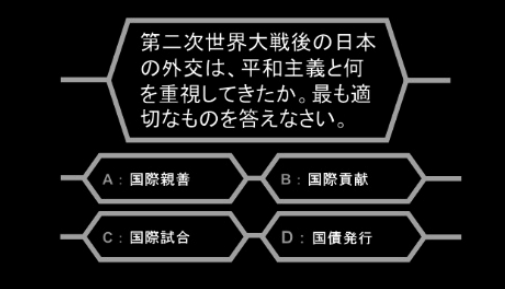
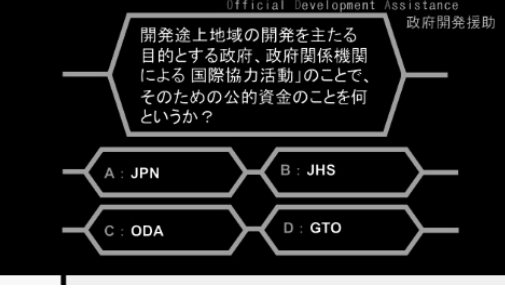
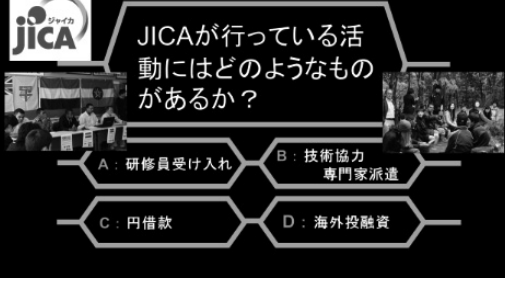
【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

地球社会と私たち～これからの地球社会と日本 日本の外交の現状と課題

持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探究し、多面的・多角的に考察する。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	持続可能な社会の形成に対して関心をもち、意欲的に探究している。
	(イ) 思考・判断・表現	近隣諸国との関係や外交上の課題について、その解決策を多面的・多角的に考察している。
	(ウ) 技能	持続可能な社会を形成するために解決すべき課題に関する資料を適切に読み取ることができる。
	(エ) 知識・理解	課題探究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
【3】 単元設定の理由	<p>定山溪地域は豊かな自然に恵まれ、地域の特徴を生かした環境教育が盛んに行われている。また、生徒数が非常に少なく、生徒一人一人の状況に応じた学習活動が展開されている。</p> <p>3学年の生徒のほとんどは、地域外にはほとんど出ることなく生活してきた。そのため、身の回りの地域の関心は高く郷土愛は強いが、その他の地域の関心は高いとは言えない。そのため、社会科では地理的分野や歴史的分野の学習において授業者が旅行で訪れた地域の写真や映像教材を意図的に用い、関心を高めてきた。</p> <p>今回の題材は、社会科におけるまとめの部分にあたる。平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うためには非常に重要な単元である。授業者が教師海外研修で訪れたマレーシアを例にして目標にせまる取組を行うことで生徒に対してより身近に課題を探究し、主体的に考える活動にしたいと考えたことからこの単元を設定した。</p>	
✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観		

【4】展開計画（全3時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	日本の平和主義外交 近隣諸国との関係  国際社会がかかえるさまざまな課題に対して、日本はどのような取組をしているのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二次世界大戦後の日本の外交は、平和主義と国際貢献を重視してきたことをおさえる。</li> <li>外交における近隣諸国との関係、問題を知る。（アメリカ、アジア、領土問題）</li> <li>平和主義の立場を明確にしていることを確認する。</li> <li>国際貢献については、技術援助を含む ODA などを中心に途上国の開発を支援していることと色々な国や地域において様々な分野で国際協力のための枠組みづくりに貢献しようとしていることを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書、資料集</li> </ul>
2 本時	2030年SDGsを達成するために～マレーシアと定山溪をLINKさせよう～  各地の現状を表す写真（資料）を基にして持続可能な開発目標との関わりについて考えよう。	<ol style="list-style-type: none"> <li>①一人一人がマレーシアの写真を見てどんな場面かを考え定山溪の写真とLINKするものを選び、理由を発表する。☆多面的考察</li> <li>②授業者の説明を聞くことで写真の意味を知り、マレーシアと定山溪がLINKすることが多くの場面で存在するという事を知る。これにより住んでいる地域から世界（マレーシア）へと視野が広がる。</li> <li>③SDGs（持続可能な開発目標）を知る。</li> <li>④マレーシアと定山溪をLINKさせたものが、SDGsの17のどの目標に対応するかをペアで考え、意見交流した上で発表する（複数の目標を対応させても良い）。☆多角的考察</li> <li>⑤この授業で学んだこと、感じたことをまとめとしてノートに記入する。マレーシアと定山溪が、SDGsの考え方の中でLINKしていることを知り、それぞれの国や個人が目標の実現に向けて努力していかなければならないことを感じる。</li> </ol> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修時に撮影した写真と定山溪の写真（タブレット）</li> <li>動画：ピコ太郎×外務省（SDGs）～PPAP</li> <li>SDGs関係資料</li> </ul>
3	2030年SDGsを達成するために～ODAの意義を知り、ゴールに向けて行動しよう  SDGsのゴールの年である2030年はどのような世界だろう？ 私たちが貢献できることはどんなことだろう？	<ul style="list-style-type: none"> <li>ODAのホームページを見て、ODAの意義や色々な分野での活動の様子を知る。</li> <li>前時で用いた写真について、SDGsがゴールとして考えている2030年にはどのような姿になっているのかをODAや既習事項を生かしながら一人一人が考え、発表する。</li> <li>意見交流を行う。</li> <li>これまでの学習を基に、現在から12年先の2030年を見据え、自分がどう関わっていけるか（いきたいか）を考え、発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットPC</li> <li>外務省ホームページ ODA</li> </ul>

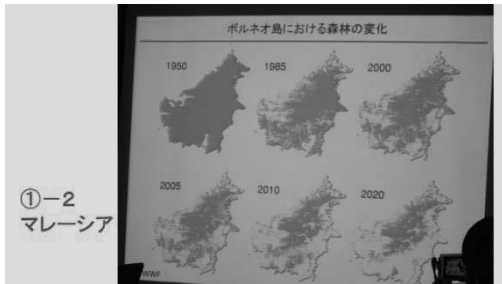
【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入	<p>I 前時の学習内容を確認する（日本の外交）</p>     <p>説明 ODA や JICA の活動は、世界の人々が幸せに暮らしていくために必要な国際協力活動を行っている。幸せに生活するためには豊かな暮らしが求められるが、環境保全を考慮した節度ある開発が不可欠である。</p> <p>II 本時の学習目標を知る</p>	<p>○パワーポイント（スライド）で学習内容を明示するとともに、適宜ワークシートに記入させながら進めていく。</p> <p>○復習の内容は、本時につなげるため、国際貢献の内容中心に絞る</p> <p>○普段でも行っている4択クイズ形式とし、全員参加で楽しみながら復習できるようにする。</p> <p>○平常行っているように、中心になる解答者を1名決めてから行う。</p> <p>○解答が難しい場合は、選択肢を半分に減らすこと（フィフティフィフティ）や周りに聞くことができる（オーディエンス）ができることを伝える。</p> <p>○クイズ3は全てが正解である。本校が毎年お世話になっているJICAの活動が多岐にわたっていることについてクイズを通して伝える。</p>	<p>○マレーシアにおける写真、教科書</p> <p>○ワークシート</p> <p>・クイズ1 正解B 国際貢献</p> <p>・クイズ2 正解C ODA</p> <p>・クイズ3 正解 全部</p>
(5分)	<p>各地の現状を表す写真（資料）を基にして持続可能な開発目標（SDGs）との関わりについて考えよう</p>	<p>○「持続可能な開発目標」は後半に提示されるので、この場面では深入りしない。</p>	

展開

Ⅲ 学習課題1の把握と写真資料のLINK

「マレーシアと定山溪の写真はどのような場面を表しているのか。それぞれを結びつけ、理由を考えてみよう！」

資料① 象・鹿による被害・森林環境



LINK



資料② 地元グッズ～手工芸品とかっぱん



LINK (次ページ)

○6つの共通テーマ・視点に基づいた写真資料をマレーシア・定山溪の面からそれぞれ用意し、マレーシアのものは一人一枚ランダムに割り当て、定山溪のものは長机にランダムに置いておく。生徒が主体的に考えて2つの資料を結びつけられるように助言・指導を行っていく。

○最初に1つ例示する。(例)

「マレーシアの写真はマングローブ(森林)監視員と判断し、定山溪の写真は森や環境を守る人々の写真を選択し、環境保全に関わる人々としてLINKさせました。」



LINK



○結びつけについて、授業者が意図したものと異なる場合、どのような思考をしているのかを学習活動の中で確認し助言を行う。

○一方、他生徒に資料を使われ、ペアの成立が難しい生徒がいた場合、生徒の考えを聞いた上で場合によっては資料を変えることを提案する。

○ネット加工した写真14枚 (A4サイズ)

①-1

畑を(荒らす)アジア象(サバ大学資料)

①-2

ボルネオ島における森林の変化 (サバ大学資料)

①-A

鹿による食害、調査

①-B

定山溪の森林を野生動物から守るための柵を設置するなどの保全活動

②-1

ウルサガン・モンゴル村インフォメーションセンターにおける手工芸品販売

展開



②-A  
定山溪

資料③ トイレ・飲料水の確保

③-1  
マレーシア



③-2  
マレーシア



LINK



③-A  
定山溪



③-B  
定山溪

資料④ 植林 (マングローブ・エゾマツなど)



④-1  
マレーシア

○トイレ・水については単純に「汚い・きれい」という見方ではなく、生活を営む上で環境を整えることの大切さを伝えることを基本として指導にあたる。

②-2  
札幌定山溪温泉のグッズ (かっぱん)

③-1  
ボルネオ島におけるトイレ (一例)

③-2  
ウルスガワン・モンゴルバル村 (ボルネオ島) の一般家庭の水タンク、水道 (一例)

③-A  
定山溪での水質調査活動及び札幌市の水を守る水道局の人々

③-B  
定山溪中学校のトイレ

④-1  
ボルネオ島におけるマングローブの植林活動

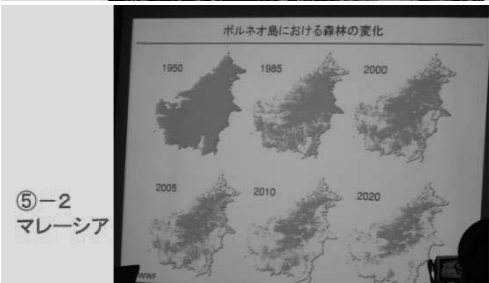
展開



LINK (前ページ資料含む) ↑↓



資料⑤ 森林減少・伐採



LINK ↑↓



④-2  
コタキハルウェットランドセンターにおけるマングローブ植林のためのポット

④-A  
奥定山溪におけるカミネッコンをういた植林活動

⑤-1  
山を切り崩し、パームヤシ農園を造成している様子

⑤-2  
ボルネオ島における森林の変化  
(サバ大学資料)

⑤-A  
定山溪中学校に隣接した場所での電気に関する鉄塔建設のための樹木伐採

展開

資料⑥ 学校



⑥-1  
マレーシア



⑥-2  
マレーシア

L I N K



⑥-A  
定山溪



⑥-B  
定山溪

IV マレーシアと定山溪のL I N K 発表・交流  
一人ずつ写真資料がどのような場面であるか、  
L I N Kさせた理由についての説明を行う。

※写真資料の説明は資料欄（右端）を参照  
説明を聞く側の者も感想や意見を発表・交流する。

V 写真資料の説明

写真に関する授業者の説明を聞き意味を知る。

○⑥-1については、発表時に壁の  
掲示物の話がなかった場合、話題を  
提供する。

⑥-1  
ボルネオ島の小学校の  
教室外観  
(アルコール禁止の掲示物)  
S. K. KAMPUNG CONTOH

⑥-2  
ウルスガン・モンゴルバル村  
における小学校2年  
生の英語の授業

⑥-A  
定山溪中学校の授業  
の様子

⑥-B  
定山溪中学校での学  
習、生活の様子

○生徒の説明内容に応じて支援を行  
う。

○説明を聞く側にも意見を発表する  
機会を設け、良い視点のものがあれ  
ば話をつなげていく。

○一面的なものではなく、色々な見  
方や考え方があるということについ  
てもふれる。

○生徒一人一人の発表ごとに行う。

○端的に説明する。

○生徒の気付きや視点の素晴らしさ  
についてできるだけ取り上げる。

展開

VI 動画視聴 SDGs を想起させ、確認する



(40分)

配付されたSDGsに関する資料を見て、授業者の説明を聞き、SDGsの概要を知る。

VII 学習課題2の把握とSDGsとのLINK

「マレーシアと定山溪の写真はSDGsの目標のどれに関連するのか。それぞれを結びつけ、理由を考えてみよう！」

マレーシアと定山溪の写真資料を見て、SDGsの17の目標のどれに関連するかをグループで考え、理由付けし、該当するSDGsの目標を写真資料に貼付する。

【参考】持続可能な開発目標(SDGs)の詳細

目標1 (貧困)	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を排除する。
目標2 (飢餓)	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標3 (健康)	あらゆる年齢のすべての人の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標4 (教育)	すべての人に包括的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。
目標5 (ジェンダー)	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。
目標6 (水・衛生)	すべての人々の安全かつ持続可能な水と衛生を確保する。
目標7 (エネルギー)	すべての人々の、安価かつ持続可能なエネルギーへのアクセスを確保する。
目標8 (経済成長と雇用)	包括かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の安かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する。
目標9 (インフラ、産業化、イノベーション)	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
目標10 (公平性)	各国内及び各国間の公平性を促進する。
目標11 (持続可能な都市)	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住性を確保する。
目標12 (持続可能な生産・消費)	持続可能な生産消費形態を確保する。
目標13 (気候変動)	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講ずる。
目標14 (海洋資源)	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
目標15 (陸上資源)	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の管理、砂漠化への対処ならびに土壌劣化の防止、目標及び生物多様性の保全を促進する。
目標16 (平和)	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々の意思一致のアクセスを確保し、あらゆるレベルにおいて包摂的で透明かつ公平な公的機関の構築を確保する。
目標17 (実施手段)	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

○(動画視聴後)以前、新聞を活用してSDGsについて学習したことにふれる。

○資料を提示してSDGsの概要について、ポイントを押さえながら説明する。

○ポイントをおさえた概要プリントの説明にとどめ、169のターゲットについては省略する。

○一人一人が選んだ写真資料とSDGsとの結びつきについて、参考になる資料を提示し、関連する目標の概要を分かりやすく示すと共に、助言を行う。

○資料例を元に、SDGsとの関連を例示する。

○1枚の写真に複数のゴールがあっても良いものとする。

○2,3人の2つのグループで話し合いながら取り組ませる。

○ワークシートに記載している発表例を参考にしてグループごとに各資料について発表させる。

発表例「資料に対応するSDGsは15番の『緑の豊かさも守ろう』と11番の『持続可能な都市』があてはまると思いました。

理由は、〜〜だからです。」

○パワーポイントのスライド  
～SDGsピコ太郎  
動画 You Tube  
1分

○SDGsの目標17を印刷した紙(裏面に弱粘着仮止め用両面テープを貼付)



	<p>VIII マレーシア、定山溪と SDGs との関わりについて発表する</p>	<p>○SDGs との対応（予想）</p> <p>資料① 1 5（陸上資源）， 9（インフラ等）</p> <p>資料② 1（貧困）， 8（経済成長と雇用）， 9（インフラ等）</p> <p>資料③ 6（水・衛生）， 3（保健）</p> <p>資料④ 1 5（陸上資源）</p> <p>資料⑤ 1 5（陸上資源）</p> <p>資料⑥ 4（教育）， 3（保健）</p> <p>☆正誤ではなく、考え方、視点を大切にコメントしていく。</p>	<p>○黒板掲示用のマグネット</p>
<p>まとめ</p> <p>(5分)</p>	<p>IX まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「今日の授業は、マレーシアや定山溪の様子が SDGs とどう関連しているかを考えてもらいました。この授業で学んだこと、感じたことをワークシートに書いてみよう。」</p> </div> <p>・学んだこと、感じたことをワークシートに記入し、本時を振り返る。</p> <p>X 次時の予告</p> <p>「次の時間は SDGs の目標を達成するために必要なことをみんなに考えてもらいます。」</p>	<p>○生徒の様子を観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>☆まとめの視点</p> <p>マレーシアと定山溪が、誰一人取り残すことがない SDGs の考え方の下で LINK していることを知り、それぞれの国や個人が目標の実現に向けて努力していかなければならない</p>	<p>○ワークシート</p>

【授業実践の様子】

・導入 前時の学習内容確認－ 1



前時の学習内容確認－ 2



・展開 学習課題 1 マレーシアと定山溪の LINK－ 1



## 【授業実践の様子】

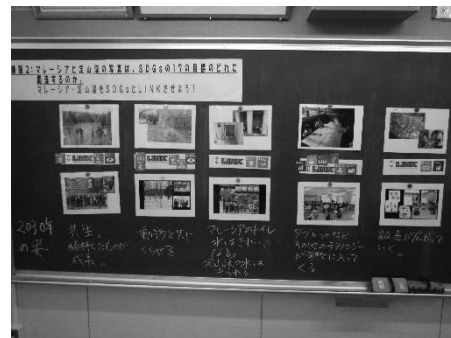
- ・展開 学習課題1 マレーシアと定山溪の LINK-2



- ・展開 SDGs の説明



- ・展開 学習課題2 マレーシア・定山溪と SDGs の LINK



## 【6】本時の振り返り

- ・学習目標を達成するために、学習課題として2つの LINK（写真資料・SDGs の結びつけ・関連付け）を設定したが、非常に効果的であった。提示の方法を工夫することで多様な授業展開が考えられる。
- ・課題の内容に応じて、個人学習とグループ学習を適切に使い分けることができた。
- ・LINK の意味が適切に伝わらないと生徒の発表内容にも影響が出ることが分かった。
- ・写真資料の選択が授業の方向付けを左右することが分かった。今回は適切であったと考える。

## 【7】単元を通した児童生徒の反応/変化【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲を含む】

生徒が誰一人行ったことがないマレーシアと生徒達の居住地である札幌市南区の定山溪の写真資料を LINK させたうえで、SDGs との関連を考えさせることで、生徒が意欲的かつ主体的に多面的・多角的な考察を行うことができた。SDGs の考え方や概要について理解することができた。12年後の2030年のゴールに向かってどのようなことを意識して生活していくことで社会に貢献していけるかを自分の問題として考えることができた。

<b>【途上国・異文化への意識の変容】</b>	
(授業前)	マレーシアに対して特に興味や関心をもっていなかった。
(授業後)	マレーシアと自分が居住する地域の共通点を自分で考え、見いだすことで親近感をもつと共に、SDGsの目標達成に向けてみんなで協力しながら努力することの大切さに気付いていた。

## 【8】自己評価

1. 苦労した点	・この地域に居住する生徒にとって外国はいまだに「遠い世界の話」である。それをいかに身近な問題としてとらえ、解決すべき問題であると感じてもらえるかという事に腐心した。授業者の体験談や写真、現物資料にできるだけ多くふれてもらうことを意識して実践した。
2. 改善点	・マレーシア研修先での体験や資料はごく一部のものでは過ぎない。日本の国際貢献について広い視野で学ばせるためには今後も多くの資料にふれさせ、生徒が主体的かつ探究的に学べる機会を提供するとともに、教材の精選や授業の工夫も同時に図っていく必要がある。
3. 成果が出た点	・自分の居住する地域と <b>LINK</b> させたことが生徒の学習意欲の向上と多面的・多角的な探究活動につながっていったことが良かった。 ・単発の授業で終わらせることなく、2030年のゴールに向けて授業の実施時期に応じた教材を用意しながら何年も継続して授業を行うことができる点と、全国、全世界のどの地域でもこの授業形態を参考にしながら、応用して行うことができる点が大きな特徴であると考えた。
4. 備考	・本校では環境教育の全体計画に <b>SDGs</b> を位置付けている。 ・札幌市立定山溪中学校ホームページ ( <a href="http://www.jozankei-j.sapporo-c.ed.jp/">http://www.jozankei-j.sapporo-c.ed.jp/</a> )

### 参考資料：

- ・新編 新しい社会 公民（文部科学省検定済教科書 東京書籍）p. 187, 194, 195
- ・外務省ホームページ  
（外交政策＞ODAと地球規模の課題＞SDGs（持続可能な開発目標）持続可能な開発のための2030アジェンダ）
- ・JICAホームページ（ODAがみえる。わかる。協力現場の現場を紹介「ODA見える化サイト」）